弔辞

謹んで〇〇社長の御霊にお別れの言葉を申し上げます。

訃報に接する数日前、お見舞いに上がった時の社長は、病魔を追い払う気慨を示され巡り来る春とともに必ず快方に向かわれるものと信じておりました……その矢先悲報に接して自分の耳を信ずることができませんでした。

こうして御遺影の前に立った時、社長の在りし日のお元気な姿が、そして声が眼のあたりに浮かんでまいります。

作業衣姿の社長から入社後間もない私達に人参やごぼうの切り方を手をとって教えていただいたこと、故郷を離れての寮生活においては同じ屋根の下で寝食を共にし、元禄川や近くの田んぼから蛙の鳴き声をきいた夏の夜の思い出、そして伊勢湾台風の大災害にあっては先頭に立って復旧につとめられた社長と泥水の中で行動を共にしたこと……

私の胸の中には社長との思い出がつぎからつぎへと去来しております。

社長から私達社員が教えられたことは数限りなくあります。その中でも座右の銘として終生大切にしていきたいものに「利は元にあり」という言葉があります。これほど広く深い意味をもつ言葉は私は知りません。〇〇〇〇産業の創業から三百億企業にまでいたる六十有余年一貫して歩まれた軌跡にその全てが盛り込まれています。人に接する考え方、仕事に取組む姿勢、物事を判断すること、あらゆるものごとの最初が大切であり原点を確実に見きわめるという尊い教えがこめられています。こうした教訓を遺していただいた私達はその言葉を理解し、これからの人の道に、社業に生かしてまいる所存でございます。

会社の発展のために尽くされた数多くの功績は私達にとっては教科書にもたとえることのできるものでもあります。長く会社の、そして社員の宝物として守り継承していく所存でございます。

社長、安らかにお眠り下さい。私達社員は社長の理想とされていた企業像をつくりあげる最善の努力を致します。手をとりあってこの悲しみをのり越え、明日へ向かって前進してまいります。社員一同涙とともにお別れを申し上げます。

安らかにお眠り下さい。

平成〇年〇月〇日

〇〇〇〇株式会社

社員代表　〇〇〇〇